

こみんか けんさんざい さいせい
古民家 県産材で再生を

年 組 名前

ちくほくむらさかい ちく こ かいしゅう
筑北村坂井の築100年を超える古民家を県産材で改修し、再生するプロジェクトが進んでいます。「信州木造り工房」が目指していることは何か、記事を読んでみましょう。

① 県内の人工林の多くが伐採時期を迎える中、同工房が掲げる「エシカル（倫理的な）消費」とは、何をすることですか。

② 工房のメンバー3人は、それぞれ何を担いますか。

さとうけんた
佐藤健太さん—

めときあきら
目時亮さん—

たなかとしあき
田中敏明さん—

③ 傷みが激しい床やシロアリで損傷した柱を、何という木で取り替えましたか。

④ 佐藤さんは、このプロジェクトについて、何と話していますか。

⑤ 改修した古民家は、何と名付けますか。また、どんな活用を構想していますか。

名前—

構想—

古民家 県産材で再生を

筑北でプロジェクト 建材の地域循環目指す

筑北村坂井の築100年を超える古民家を県産材で改修し、再生するプロジェクトが進んでいる。来年度に完成予定で、貸しスペースとして活用。長野市の建築士や林業の有志でつくる「信州木造り工房」が手がける。古民家の活用に悩む人向けに「古民家のモデルハウス」としても公開し、木の専門家として改修の相談にも応じる考えだ。



築100年を超える古民家再生に取り組む(左から)田中さん、目時さん、佐藤さん



信州木造り工房が考案した木製テント「c o 屋」

工房のメンバーは長野森林組合(長野市)の佐藤健太さん(45)と長野市で建築事務所を営む目時亮さん(57)、同市で建設、設計会社を営む田中敏明さん(58)の3人。県内の人工林の多くが伐採時期を

来年度完成へ 貸しスペースの活用も

迎える中、地元の木を地元で使って森林の更新を図る「エシカル(倫理的な)消費」を掲げ、昨年は北信のスキでデザイン性のある木製テント「c o 屋」を考案。イベントでの活用など、地域に広める活動をしている。

さらに多くの木の活用を模索する中で着目したのは、古くは地元で伐採された木を使い、地元の畑の土で壁を塗るなど「まさにエシカルな住宅」の古民家。同工房が筑北村内のイベントに参加したことをきっかけに、長野市からアクセスが良いこともあり田中さんが村内で古民家を購入。昨年1月に改修を始めた。

佐藤さんが改修の木材を用意し、目時さんがデザインを、田中さんが職人らとともに施工を担う。平屋約200平方メートルの中心には、頑強な柱と壁で住居スペースを設け、建物全体の耐震を強化。傷みが激

空き家
20万戸時代

しい床やシロアリで損傷した柱はスギやケヤキで取り替え、いぶされて真っ黒になった梁は残して、屋根内側のかやぶきはあえて見えるようにデザインした。

佐藤さんは「環境への負担を減らし、かつ林業を成り立たせるには、より価格が高い建材として地域で循環されると良い」と話す。

古民家は「筑北ラボ」と名付け、マルシェやカフェ、ギャラリーなどとして村内外の住民や事業者に貸し出す構想だが、「使いたい人に活用方法を提案してもらい、地域づくりに役立てたい(目時さん)。「県産材を使いたいけどどこから調達すればいいか」「予算にに応じて古民家を改修したい」など、今後空き家の購入や改修を考える人にラボを見てもらい、工房のメンバーが相談に乗るといふ。

ラボ改修の様子は信州木造り工房のインスタグラム(@izukukurikobo_shinshu)で紹介し、同アカウントとメール(shinshukurikobo@gmail.com)で改修などの問い合わせに応じている。

こみんか けんさんざい さいせい
古民家 県産材で再生を

解答例

年 組 名前

ちくほくむらさかい ちく さいせい こ かいしゅう
筑北村坂井の築100年を超える古民家を県産材で改修し、再生するプロジェクトが進んでいます。「信州木造り工房」が目指していることは何か、記事を読んでみましょう。

① 県内の人工林の多くが伐採時期を迎える中、同工房が掲げる「エシカル（倫理的な）消費」とは、何をすることですか。

【答え】 地元の木を地元で使って森林の更新を図ること

② 工房のメンバー3人は、それぞれ何を担いますか。

さとうけんた
佐藤健太さん— 改修の木材を用意

めときあきら
目時亮さん— デザイン

たなかとしあき
田中敏明さん— （職人らとともに）施工

③ 傷みが激しい床やシロアリで損傷した柱を、何という木で取り替えましたか。

【答え】 スギやケヤキ

④ 佐藤さんは、このプロジェクトについて、何と話していますか。

【答え】 環境への負担を減らし、かつ林業を成り立たせるには、より価格が高い建材として地域で循環されると良い

⑤ 改修した古民家は、何と名付けますか。また、どんな活用を構想していますか。

名前— 筑北ラボ

構想— マルシェやカフェ、ギャラリーなどとして村内外の住民や事業者に貸し出す